

令和6年度 保護林モニタリング調査計画

計画区	署等名	保護林名称 (※)	間隔 (年)	実施予定年度・プロット数				基礎 調査点	前回調査結果 (H26・R1)
				R6	R11	R16	R21		
東青	青森	八甲田山(群)	10	3		3		H26：課題なし	
		眺望山ヒバ(希)	10		2		2	R1：課題なし	
		後潟ヒバ(希)	10		2		2	R1：課題なし	
北上川 上流	盛岡	早池峰山周辺(生)	5	3	3	3	3	R1：コホゾカの痕跡	
		葛根田川・ 玉川源流部(生)	10		4		4	R1：課題なし	
		山王海ネズコ 遺伝資源(希)	10	2		2		1	H26：課題なし
		男助山鶯宿 天然スギ(希)	10	2		2			H26：課題なし
		北上山御堂松(希)	5	1	1	1	1		R1：実生が少ない・松枯れ
子吉川	由利	鳥海山(群)	10		4		4	R1：課題なし	
		鳥海山ムラスギ 遺伝資源(希)	10	2		2			H26：課題なし
		獅子ヶ鼻湿原(希)	5	2	2	2	2		R1：ナラ枯れ
宮城 南部	仙台	船形山(御所山)(群)	10		3		3		R1：課題なし
		蔵王(群)	5	4	4	4	4		R1：オシビソの 枯死
		斗蔵山ウラジカシ 遺伝資源(希)	10		1		1		R1：課題なし
		青葉南モミ(希)	10	2		2		1	H26：課題なし
		鈎取山モミ(希)	10	2		2			H26：課題なし
		弥太郎山針葉樹(希)	10	2		2			R1：課題なし
計		17		25	26	25	26	2	

※ (生)：森林生態系保護地域、(群)：生物群集保護林、(希)：希少個体群保護林

- ・モニタリング間隔は基本的には10年である。
- ・前回の調査結果及びその他課題があれば、留意事項として5年間隔とする。
- ・10年間隔とした保護林については、事業量のバランスを取るため、モニタリング間隔についてR1を起点としたものとR6を起点としたものに任意で配分した。